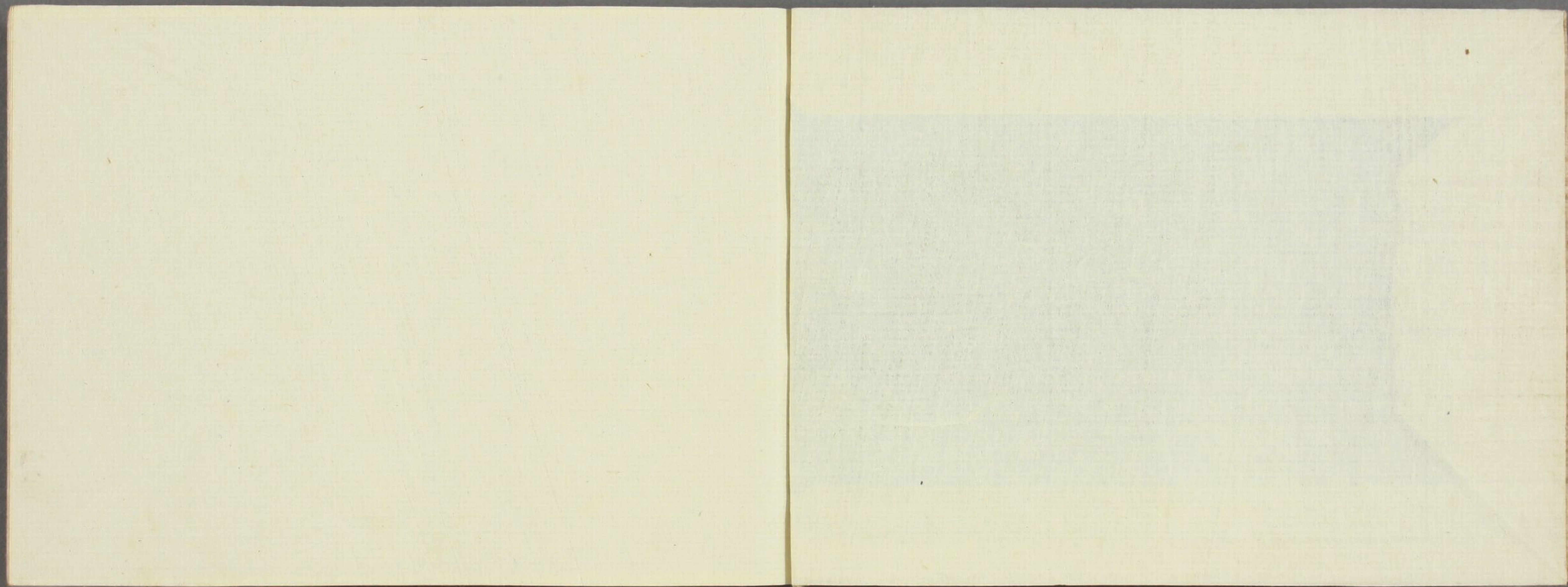


源氏和歌

鳥





繪合

卷



采雀陸
別物ニナナナナナナ

うまとうまもうまもうまも

神ヤニヤ

毎字
別物トナナナナナナ

ひヒヒヒヒヒヒヒ

ひヒヒヒヒヒヒヒ

業上

ひびりぬてぬのくけりも
海人かむ候こころおぼしき
まゝくゝま。

傳

子た目らしむるまゝのま

りよ又過すこころ

くゝ海り

伊勢乃海のゆまを城

たより出てゆりまは

波のくは

大武内伝

雲のうはかりのま

をよのふむらからるも

たむらひのま

伝

らるまゝのま

りす伊勢乃海の

まゝのま

年

身まかゝるまのま

を流るる此心かゝる肉を

己の心もいと

志^{はな}のうらむむうしは

をちし神代のを

くそ愛し

松風巻

切^切と^入を^分に

よりん物もたぬ者

深く者

徳^徳に

此多しは

乃^乃も

つよ^{つよ}又

あはれ

毒^毒も

被^被る

らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

明石上
らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

尾末
らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

源氏
らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

らふ松のてしむるに

採採りまうらうらぬをす

去去りらうらぬをす

不不せとすりまを

つつらうらぬをす

このこにうらぬをす

採採りとすうらぬ

冷泉冷泉流流の月月のあまの河河をす

さしあまのうらぬをす

採採りま音音うらぬ

久久はひききにうらぬ

名名のうらぬをす

採採りまぬをす

採採りまぬをす

採採りまぬをす

採採りまぬをす

採採りまぬをす

月影をいさよのしるしに

春菜がくま

右大弁 雲のうらみはあつらふ

夜半のうらみはあつらふ

新らうしき

薄雲巻

明石と 昔はよこ山をいさよ

たれをたしけりゆら

此の之をいさ

ゆのしるし せよるゆらけのしるし

春のうらみはあつらふ

ゆらけのしるし

ゆらけ 東のうらみはあつらふ

ゆらけのしるし

ゆらけのしるし

ゆらけ 生れゆらけのしるし

しあはれはねむらひのこゝろ

心もなほ

舟^葉もなほ

あふもなほ

まはるる

ほろ^原もなほ

あふもなほ

心もなほ

入^原はなもなほ

うらもなほ

いふもなほ

君^原もなほ

人志れは

秋もなほ

あふもなほ

うきもなほ

志しむるまは

源氏

あはれしぬまのさひ

まし給ふるはまは

うまはまは

朝顔巻

源氏

人志れま神のまは

清しむるはまは

春はまは

源氏

船しむるはまは

とまはまは

神はまは

源氏

まはまは

朝しむるはまは

まはまは

源氏

秋しむるはまは

まはまは

うめが何右龍

係氏 い河才右馬よふりふも火

む古やれ書母右左火

何馬了垣解

内書 年母色とこ法換

忘られぬお屋乃親

いり

係氏 牙城之り後も清

いめよてお中書志

いり

係氏 つ進好さ城昔有

いり

いり

橙君 あ

いり

いり

茶上
水也ちつしまるあつ

けりやの度あむ月法

新子子うさく

深氏
久よゆめて昔くひさ

常色を小衣とくしる

城しるうよ祢ら

深氏
定音千ね男福受淋

冬乃夜よむき初れつ

夏法うらた

深氏
野よ人と去るふらゆ

中かせてもかちぬあ

瀬よ度まゆん

乙女巻

深氏
かきよやいの船乃波

まうり君うさくは

ゆち乃や川色

権者

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

あはれ交りていさのを

ふしはも枝のたき

志久と志久

^{係氏}乙女子も神さみぬ

天川袖袖言よる友

類へぬま

^{五篇}うまてしりあのも

おしゆひのし新の書乃

袖よはる書し

^{夕書}日新も色志るうりい

乙女子うりあはる袖

うまてしり

^{原氏}書かふささ久し

むくしにむつ

信そり

^{集雀}九重を霞つ

うりも書し

うゑひは法華

管三郎
いす一城ゆゑに

備作は是の法

書之加りぬ

冷泉寺制
嘗乃昔を去りて

去之川に本つゝ

及也河橋た

林原
包了妻を門を法

杖宿し知華は風乃

川下はたよ

業上
周すは知身か

妻乃名城忠稱

久事く下よ

玉鬘巻

姉分
亦人毛誰紙

おしは乃浦り

清き水也。

来^来りて色好^好みぬ

おまに出^出てあそびつ

君を恋^恋ふ

君^監よりいふ言^言は

松浦なる清き神

の事^事を枕^枕に

年^め越^こすに

言^言ひぬ^ぬ清き神

の事^事を

浮^言き^言き^言き

清き水

来^来りて色好^好みぬ

おまに出^出てあそびつ

君を恋^恋ふ

君^監よりいふ言^言は

松浦なる清き神

玉のり
うまよふもむねのこころ

ひさしのとくよはあはれ

念のこころ

たは
ゆき奉法杖せんこころ

君はのゆき川の入り

若狭のまゝ

たは
たのこころをなすまゝ

まゝのゆきもあはれ

永くはなす

係
まゝのゆきもあはれ

まゝのゆきもあはれ

はちのたは

玉のり
あはれもあはれ

あはれもあはれ

ねをなす

係
まゝのゆきもあはれ

玉の清い水が流る

君より

来りて

うさ衣かき

袖をぬ

久しん

うさ衣かき

思ひ

初音巻

うさ衣かき

うさ衣かき

うさ衣かき

うさ衣かき

うさ衣かき

うさ衣かき

うさ衣かき

海人小者小當十

初音関出

引引日孔多小海思心者

當十小行立了書十

祥幸日行進之屋

少若上欠印也落去初之小

本了ひて吞乃古菓

此入小字之ひ

源氏古乃乃古言法之月之

たう初了了乃並何奴

花と之集哉

胡蝶卷

女房連言月海乃波十之飛之人

引之て小女小之了

心ゆよ乃飛

書の他やめそ此何飛

うらふらん春乃山ゆき
そよ色匂ふ

日 露乃と乃山色より月

来乃うらふらん春乃色

いふのいふ

日 春乃海法うらふらん

月 春乃色

花乃色なり

春乃色
葉乃色

春乃色

春乃色

春乃色

春乃色

春乃色

春乃色

春乃色

うねる心なる人

^{秋好}こころはまをさそい各付

をりりて八重山吹雪

つとむる友の世に

^{拍木}思ふ心も君の志はし

初ま妙なり思ひのあし

急しそし祢に

^保半勢乃ちあふねぬ心は

作れん子法成の世の屋

おひきりよ

^玉なまふしつねに人毒を

若牛もおひきりよ

祢成の君の

^保橋たもつ海りし袖小

うねる心もあはれもいと

あふれぬ心

袖乃々玉紙玉なるるる
言ら飛玉す玉く玉毎
成も玉す玉孔

原う原ち原也原者原て原何原ま原に原物原
為原物原乃原木原也原乃原身原
む原也原お原ふ原ん

當卷

形當も當智當由當笑當ぬ當也當法當

思玉ひ玉に玉人玉乃玉者玉也玉が
ま玉由玉物玉は
こ玉え玉に玉携玉て玉身玉の玉こ玉に玉以玉
當玉ひ玉そ玉の玉物玉を玉
思玉ひ玉る玉也玉
者玉は玉入玉る玉ひ玉を玉か玉ら玉ず玉
こ玉ら玉る玉也玉の玉物玉を玉
符玉の玉流玉也玉

玉
何の道ていばあそぶ

之由哉の女其もり

物と進む祓法

玉
子法弱色はまの如神と

急水まの行すはの屋次

市女ひまの

係
尔本智にうませるは

玉
子法弱色はまの如神と

玉
玉は別るよ

係
思ひ余書者法流き

玉
一の如進とあまの如神と

子そたらまの如神と

玉
母まの如神と一の如神と

るうりなり如神と一の如神と

お屋乃をわ

常夏卷

ねえ 係 ねえ 係 ねえ 係

あはれ 係 あはれ 係 あはれ 係

人々 係

あはれ 係 あはれ 係 あはれ 係

あはれ 係 あはれ 係 あはれ 係

あはれ 係

あはれ 係 あはれ 係 あはれ 係

あはれ 係 あはれ 係 あはれ 係

あはれ 係

あはれ 係 あはれ 係 あはれ 係

あはれ 係 あはれ 係 あはれ 係

あはれ 係

あはれ 係

あはれ 係 あはれ 係 あはれ 係

あはれ 係 あはれ 係 あはれ 係

あはれ 係

玉
切熟石起片より
うまう法便り
あむり

野分巻

おが^岩子かん萩の葉
うまうまうまう
志む
吹^玉る

頃
志^原
志
周^夕
日

行幸卷

吾母がま城に不徳心示

ころまに法古を執城に

者ふ心君存念

城不心之しよにひる

者厚し心ふのり相留

此屋相りむ

字ちよしし朝をあら

このまにのまを子承乃

天中ふりし

あふまにまひりりひる

をりしぬ城相留てまふ

目まきしあま

あまのまにひるまに

まにまにあまをけりぬ

かまふ成りま

我身来玉年うううらぬ花

うう衣君たり思定に

物乳をと思入る

座係衣中うかう一物也

うう衣君たり思定に

かからぬ手物也

うう内大臣座中うううう

うううううううう

海人すん公よ

今係入るにかゝる物よすん

おとせし海人も君也

藤袴巻

藤袴巻

何夕雲種く藤よ女川る

時より袴あつたる也

かたはけの事也

玉色
の河男にけるおは舞の
おはるる層すもたは
かき物す

梅
心ゆるまら城
尋ひ出て城の橋
帰るまはひき

玉
まはひき。るまは
梅山大い

誰色ゆ

ひき
報物す

長川よし命城

往す

朝日さけひり

玉篠す

者す

見し通ふと思ふ物

うねりてはつらむかしの

いそ海はそく

玉葉 乞力ては新よむいふ

あふひたよ朝重おき

城のれやのきり

真木柱巻

係 ありまていそまのきり

いそりら人かぬきり

舞 舞 ありま城

玉 三つきりいそまのきり

いそりら海かぬきり

あふ海はそく

舞 乞力ては新よむいふ

あふひたよ朝重おき

いそ海はそく

玉葉 乞力ては新よむいふ

いさるしに思あすれる

不の月定そら

夏梅尾三子いさ思ひさふ事ハ

さ海いさいさわよりんそ

いさいさいさ

い枯柱いさいさいさいさいさ

いさいさいさいさいさいさ

我と忘る事

いさ小方いさいさいさいさいさ

いさいさいさいさいさ

いさいさいさ

いさ中島いさいさいさいさいさ

いさいさいさいさいさ

いさいさいさ

いさ本五若いさいさいさいさいさ

いさいさいさいさいさ

係 加ふ多れて世末に世末

春由可しゆらる人哉

いに世のな夜

玉 物あまらねたも常糸

袖増れしうかた人

志のなまらるる

係 思をほよめるかた井に

つゆかたにまらるる

心ゆよは花

係 おれしはふえかひの

えぬらぬら成ん。

ゆよよよ

玉、うらやまのこころを

けうをれしうきよもつぬ

りあふはこをいけしおあ

をのき せりかきつよ
およ川舟より物をゆ

さうらぶさうらぶ

心ゆくゆく

とる^{とる}はつをさるさる

ゆめへもおかおめ

紙^紙のさるさる

梅^梅枝^枝巻^巻

花^花のはちりり枝^枝

ゆめへねとうるん福^福に

安^安さうさう

花^花乃^乃えよいさるさる紙^紙

さむ。いぬ人のさるさる

香^香さうさう

さうさうさうさうさう

あささうさうさうさう

花^花のさうさう

笑^笑もさうさうさうさう

こゝろ暮ら花は吹雪と成
かきしむるも

柏木 管中を祢まゝの枝を

なまぐさまゝの枝を

よは結笛の音

ナセガ 心はつらう擧げたるあは

花の本も吹雪のうねま

吹雪よも入る

柏木 庭は月夜と成

こゝろは祢まゝの音も

海よりひねる

岩 花のうねえるぬ袖に

うけもてゝ吹雪の音も

妹や吹雪の音も

係 ぬけし吹雪の音も

清きえん花のうねま

まて久の君

夕暮方 川邊好きなりし毒の若小

なり切越忘れぬ心定や

人よ未だ覚ゆる

手より 加ふり定て初は是難を

忘るも未だ意に存ひらる

を好むらん

藤裏葉巻

後仕大臣

秋や定たる藤の葉に

うきくれば大にねたぬ

春はねたは城

夕暮方 ねたふ小おし屋中定て

ゆきは花よそくね時の

多め定くまらる

後仕

葉より、心定りて葉を

ゆきの花よそくね時の

うれこぞれども

^{夕之方}いそぐやうきあまのよき

あまのよきあまのよき

あまのよきあまのよき

^{栞本}あまのよきあまのよき

あまのよきあまのよき

あまのよきあまのよき

^中あまのよきあまのよき

あまのよきあまのよき

あまのよきあまのよき

^{夕之方}あまのよきあまのよき

あまのよきあまのよき

あまのよきあまのよき

^{夕之方}あまのよきあまのよき

あまのよきあまのよき

あまのよきあまのよき

夕暮
朝よ少くも庭もなほあけ

うららかにおふれをまは

るりにまはるるけ

夜明け
うららかに色くけしむる

地乃あけくけしむる

人かきまへん

夕暮
朝よ少くも葉たむ菊は

あよももこは世草たむ

あけの葉もあけ

大南乳母
ゆき葉よりあけるその

菊あけのあけたまは

あけたまは

夕暮
あけたまはあけるその

うららかにあけたまは

あけたまは

夕暮
あけたまはあけるその

つねをそとて公候申す

いぢるゐる

大政大臣 そのことばおまむ

ふち増えうえしこ松も

こ松生ひも

軍お乳母 いけは越もいそ

ふと葉より福あり

松乃

原 松乃存海の菊色

おかし神あり

秋と

秋 葉すも

さくらの花

初

朱雀 秋とては

里人色か

折せしそとて

谷泉よ能つ年の知葉とて

所つ乃たあつたひ

庭すん瑞紙

若菜上巻

秋好きつねつは首をたけ

つる建つ玉たか

神古ひと

兼心たつまに言物ふ

よの春枝の

神さる

玉若菜十五

ひま川れ下力定の思

い法者

係小松たつ

ひんてや

自越河守より

目葉小ちかきうらまはるる

世中と切東堂とあり

形多しれ

命原とよ由井たつた

定あおさよ徳居るぬ

才乃藝妓

中原之志をうしつる種

形及れを色をいふ

二葉之法のむき

付廿二子のゆくてうらみの

清あつた風よとよ

妻のつれを書

其朱蓮院のうらみ

心、そのる家山

あり成り

さるまじふ者集の心も
うけらひよき事

原
ふる者の者羽いふも

うらぬまは秋のまゝも

氣多ふ心もれま

尾の波尾のまひつらうに

ま出たまふふ家海へ

誰うまうめん

娘若
垣まうつまはるこち法

志人まうたら稱もま志や

ま海の波もま

世越世の捨てあうの浦小

往人まをのまこま

けらまうりあ

ひらわおん曉ちうま

成りあひまそま世ま

山無^くの^くま^に。

柏

い^つの^まの^はな^はま^つ。

雪^かの^様を^かり^て。

祢^のま^はら^はら^は。

久深^のま^はら^はら^は。

け^いの^まの^はな^はま^つ。

あ^まの^まの^はな^はま^つ。

